

地域おこし協力隊 竹野浜で活躍中!

4月1日、地域おこし協力隊(※1)として、青柳順子さんと森定佑実子さんが竹野にやってきました。二人の紹介と春夏の活動をお届けします。

「地域に貢献したい!」という思いを持っていた二人は、今年1月に東京で開催された『地域おこしフェア』で豊岡市のブースを訪れました。そこ

で竹野浜自治会の取組みと竹野の海の美しさに惹かれ、豊岡市竹野町への移住を決断しました。

二人は竹野浜自治会地域の住民自らが策定した「竹野浜ふるさと自立計画」のプロジェクト(※2)の推進や、空き家の利活用など、地域活性化に向けた活動を地域の方と一緒に取り組んでいます。

また、英語が堪能な森定さんは竹野浜を訪れる外国人にアンケートを実施。青柳さんは海水浴客の笑顔の写真をボードに貼り出す活動などにも自主的に取り組みました。

地域内に空き家を借りて暮らしている二人が、海の美しさとともに感動したことは、地域の方の温かさです。

お隣さんや近所の方との触れ合いや、住民の方から野菜や魚などのお裾分けは、人の温かさを感じる瞬間です。

「地域に貢献するためには、まずは地域を知ること」。二人は真っ黒に日焼けしながら

竹野浜地域を走り回り、元氣いっぱい活動しています。

◆コミュニティ政策課
☎21-9020

※1 都市住民など地域外の人材を受け入れ、地域の実情に応じたさまざまな地域活動を行いながら、定住・定着を図ることで、地域の活性化につなげる取組み

※2 和みの灯り(行灯)を路地等に設置・点灯し、情緒ある風景を生む「ロジナリエプロジェクト」や、散策を通じて竹野浜の歴史や自然資源を地域外へも発信する『ブラタケノプロジェクト』など



元気に活動する青柳さん(左)と森定さん

| 青柳順子さん | 森定佑実子さん |
|--|--|
| 春に来た時はとても静かで柔らかな雰囲気とゆったりとした時間経過を感じました。夏のにぎわいのイメージを持つことができませんでしたが、多くの観光客が訪れ、大変なにぎわいでした。この二面性が個人的に気に入っています。 | 自然を身近に感じることがができる! 周りを見渡せば、海や川、半島や山があり、夜には空一面に星が輝いています。夏には海水浴、秋ごろまではカヌー、冬にはカニと魅力が盛りだくさんです。 |
| 東京に居た時よりも近所付き合いが強く感じられます。最初は「こんなに頼っていいのだろうか?」と若干不安になりましたが、今では「ただいま帰りました」と話し掛け「お帰り、今日はどこに行ってきたんだい?」と尋ねられるのが、毎日の小さな楽しみです。 | 来る直前はとても不安でしたが、地域の方々に支えられながら、少しずつ不安が消えていきました。地域の方々から野菜や果物などの差し入れをいただいたときは、うれしくて涙が出ます。次の日も頑張ろうと心の中で思う瞬間です。 |
| 夏=海水浴、冬=カニさきという目玉がありますが、春と秋は集客に困っているという話をよく聞きます。春を過ごしてみても、夏には味わえない素敵な風景をたくさん見つけました。春・秋の竹野もいいんだぞということをもっとの人に発信し知ってもらいたいです。そして、一人でも多くの方に「竹野での思い出」を作ってもらえるように頑張ります。 | まだまだ知らなければいけないことがたくさんありますが、今の一番の目標は「空き家の利活用の成功事例をつくること」です。現在も検討委員会などに参加し、地域の方々と一緒に、この地域にとってより良い利活用の方法を検討しています。この計画を成功させることができるよう頑張ります。 |
| 理科の教諭として埼玉県の高校に4年間勤務。赴任校の閉校を機に「自然豊かな場所で暮らしたい」という夢がかなえるため、また地域を元気にするため、地域おこし協力隊に志願。剣道は三段の腕前。(あおやぎじゅんこ・26) 東京都練馬区出身 | カナダ、韓国、オーストラリアにそれぞれ約1年間の留学経験があり、特に英語が堪能。培った語学力と地域に臨んだ感覚を生かして、地域おこし協力隊に志願。(もりさだゆみこ・28) 北海道苫小牧市出身 |

もったいない川柳
応募作品紹介
(氏名またはペンネーム・敬称略)

◆一般の部

無駄は捨てむだを拾って子や孫へ (ハタ谷の栃)

お風呂の湯残りは明日の洗濯に (のん)

食べ残し手を変え味変え再調理 (武藤哲)

議員さんあんなに居てはもったいない (臨海和笑)

雨水を貯めて活用水やりに (村尾いつ子)

ちよつと待て買うのは早い直るかも (村尾利一)

一粒ももったいないと無駄にせず (村尾肇)

包装紙ももったないと再利用 (村尾八恵子)

もったいない世界を結ぶエコロジ (本木和彦)

◆高校生以下の部

いつまでもあると思うなエネルギー (匿名)

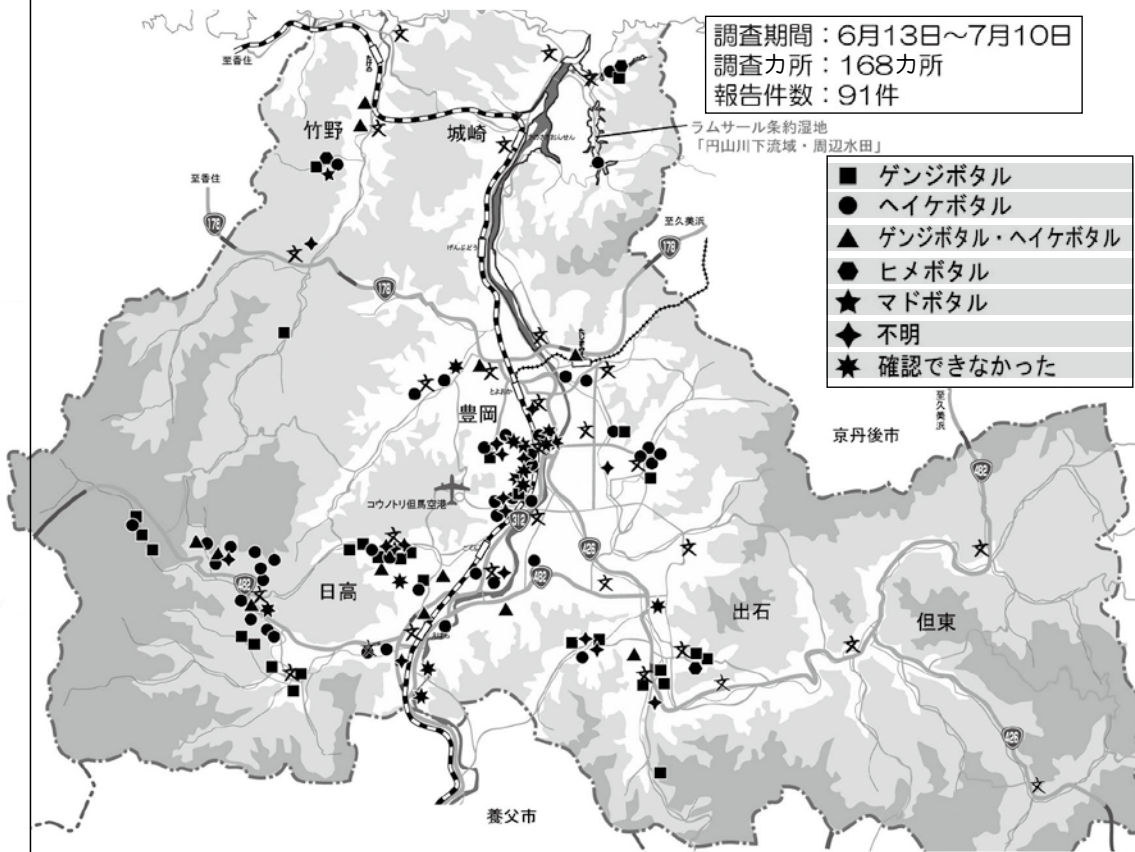
たくさんさんの買い物袋ぶらさげて (せんりゆう)

ゴミの山地球に悪いリサイクル (むっち)

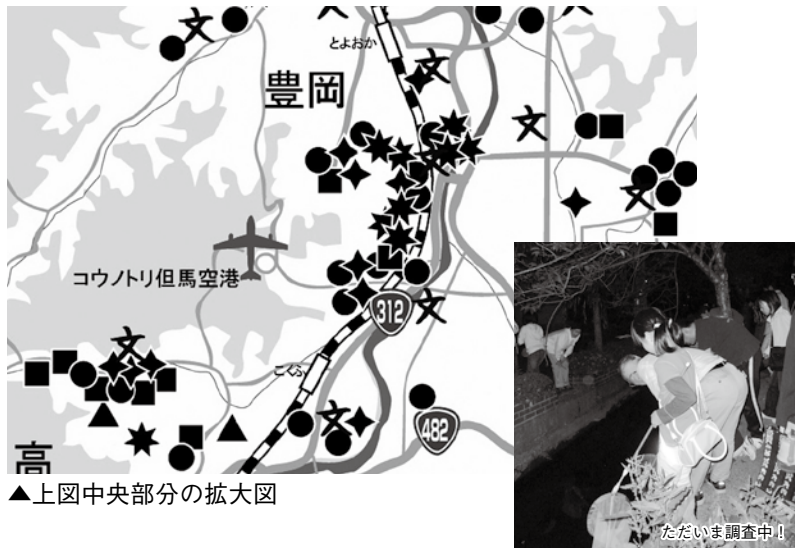
野菜の皮分厚く切りすぎもったいない (A)

思い出の中にも光をともしたかも…

平成26年ホタル調査の結果報告



▲平成26年ホタル生息調査の結果(毎年、夏季の約1カ月間調査)



▲上図中央部分の拡大図

さて、上図のとおり、ホタルの分布がみられました。個体数の報告では、全体的に昨年より『少なかった』という結果に。また調査時期よりも早く出現した場所があるなど、市民調査を続けていくことで分かることも出てきました。市は、今後、ホタルだけでなく身近な生きものを対象にした市民調査を行う予定です。ぜひ、協力をお願いします。



「おじいさんと一緒に昔ホタルがいた場所を調べました」調査に18回行きましました。これは、小学生からの報告書に記された言葉です。今年の夏の「ホタル調査」結果を報告します。《問合せ》コウノトリ共生課 ☎21-9017

昨年と同じ場所の再調査はもとより、中には、期間中18回も調査した小学生もいました。おじいさんが孫を連れて昔ホタルがいた場所を調査した家族など、ホタルは、思い出の中にも光をともしていたようです。

受け入れ先を募集

来年度、協力隊を受け入れ、協力隊と一緒に地域の課題解決や活性化に向けた活動を行いたい地域(地区や区など)は、10月24日(金)までにコミュニティ政策課(☎21-9020)へ連絡してください。

竹野の印象は？



竹野での暮らしは どうですか？



今後の意気込みは？



プロフィール

6月13日から7月10日まで、市民の皆さんの協力を得て「豊岡のホタル調査」を行いました。今回も市内の小中学校にも呼び掛け、91件・168カ所(昨年61件・107カ所)から調査報告書を受け取りました。